

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【上小小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎学力の定着。 国語「書くこと」算数「数と計算」 <指導上の課題> 教員側のICT活用能力の個人差がある。学習場面に合ったICT機器の活用個人差がある。	⇒ 朝学習「基礎学習の時間」を活用して、国語の書きと計算の基礎問題に取り組む。【通年】 ICT機器の有効活用を行い、算数の「数と計算」に関する資料提示をわかりやすいものと改善する。【週に1度】 国語の授業において、文章を書く時間の確保を積極的に行い、書く力を高める授業を推進する。【週に1度】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 授業中の「個で考える時間」の確保。 算数「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させていく必要がある。児童主体の学習活動の機会が十分に確保されていない。	⇒ 1人1台端末を有効活用し、ドリルパーク等で、一人ひとりの課題に合った学習が進められるようにする。【通年】 ICT機器の有効活用を行い、算数の「データの活用」に関わる授業をわかりやすい内容になるように工夫する。【学期に1度】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の(1)言葉の特徴や使い方に関する事項においては、特に良好な結果であった。また(2)情報の扱い方に関する事項については、更なる向上を目指すことができると考える。情報と情報の関連付けや語句と語句の関係の表し方を理解し、活用することを定着させ、情報活用の視点を持ちながら日々の学習活動を行う必要があると考えられる。 算数では、良好な結果であった。個別の領域では、特に「棒グラフの読み取り」「異分母の分数の加法」で良い結果が得られた。一方で、「台形の意味や性質」「角の大きさ」についての理解では、課題が見られた。 理科では、知識・技能における無回答率が課題となっている。
思考・判断・表現	国語の思考力、判断力、表現力等に関する事項においては、おおむね良好な結果であったが、その中の「A話すこと・聞くこと」の中で、課題がある。「目的や意図に応じて話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討できる力」を身に付けさせるために、身近な出来事から話題を決め、書くだけでなく、発表をする・発表を聞くなどをして、自分の考えをまとめ、わかりやすく伝えることができる能力を高めていく必要がある。 算数の思考・判断・表現は、良好な結果であった。しかし、分数の加法における共通する単位分数について言葉で説明する問題については、課題が見られた。今後は、算数における表現力を高める指導が必要である。 理科については、観察・実験の方法が適切であったかを検討する問題について無回答も多し、課題が見られた。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	毎週金曜日の朝学習「基礎学習の時間」に、国語の漢字・算数の計算などの学習に取り組むことができており、基礎的な学力の定着を図っている。 また各教科の授業においても、ICT機器の有効活用が進んでおり、どの教科においても工夫した資料提示を行ったり、児童自身が資料作成などで効果的な活用をしたりすることができるようになっている。	変更なし
思考・判断・表現	B	自主学習に取り組み、自分で課題を決めて学習を進め、表現する力を定着させている。 また自分の考えや意見をノートに書き残すだけでなく、オウリングプラスや共同編集アプリ等に入力し、学級全体で共有するなど、効果的で工夫された授業実践に取り組むことができている。	全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、算数の授業において、問題を解くだけでなく、図や言葉を用いて解き方の説明を記述する機会を増やし、算数における表現力を高める指導を充実させていく。【週に1度】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)